

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月14日

【四半期会計期間】 第36期第3四半期(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安部 一夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安部 一夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第35期 第3四半期 連結累計期間	第36期 第3四半期 連結累計期間	第35期
会計期間			
売上高 (千円)	11,844,181	13,011,569	16,183,883
経常利益又は経常損失() (千円)	76,336	387,508	235,604
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失() (千円)	15,320	215,271	306,562
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	14,959	213,592	324,816
純資産額 (千円)	4,710,761	5,262,895	5,049,979
総資産額 (千円)	13,872,014	13,750,941	13,927,931
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額() (円)	0.72	10.06	14.33
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)		9.89	14.07
自己資本比率 (%)	33.9	38.2	36.2

回次	第35期 第3四半期 連結会計期間	第36期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.69	3.24

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第35期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当社グループは、当第3四半期連結会計期間において下記シンジケートローンの各金銭消費貸借契約の返済条件変更につき、それぞれにおいて引き続き協定を平成25年11月30日に更新しております。

契約書の日付	債務者	主幹事行	相手先	期末残高(千円)
平成16年8月31日	(株)安楽亭	(株)みずほ銀行	日新火災海上保険(株) 台湾銀行(株) 他合計15の金融機関	545,811
平成17年9月12日	(株)安楽亭	(株)みずほ銀行	(株)三井住友銀行 (株)商工組合中央金庫 台湾銀行(株) (株)静岡銀行 他合計18の金融機関	1,603,393
平成20年3月31日	(株)安楽亭	(株)横浜銀行	(株)横浜銀行 (株)商工組合中央金庫 三菱UFJ信託銀行(株) (株)りそな銀行	1,239,644
平成18年2月9日	(株)サリックスマーチャン ダイズシステムズ	(株)みずほ銀行	(株)みずほ銀行 (株)横浜銀行 他合計6の金融機関	531,727

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府・日銀一体となった財政・金融政策等により円安・株高が進行した結果、輸出の伸びと個人消費の改善等の後押しを受けながら緩やかな回復がみられました。また、2020年の東京オリンピック招致が決定し、中長期的にも景気浮上を後押しするものと期待されておりますが、一方、円安に伴う原材料・エネルギー価格の上昇や消費税増税、海外の景気減速懸念等もあり、先行きは引き続き不透明感が残る状況であります。

外食業界におきましても、個人消費が改善の兆しを見せておりますが、一方で、原材料・エネルギー価格が上昇する等、経営環境は依然として厳しい状況が続きました。

このような状況の下、当社グループの主力である焼き肉業界は、景況感の回復により既存店動向は総じて好調を維持しております。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高130億11百万円（対前年同期比9.9%増）、営業利益4億39百万円（前年同期は21百万円の損失）、経常利益3億87百万円（前年同期は76百万円の損失）、四半期純利益2億15百万円（前年同期は15百万円の損失）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

安楽亭業態

安楽亭業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は199店舗であります。内訳は直営160店舗、暖簾5店舗、FC34店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、「スポーツ家族応援フェア」、「生ビール&焼肉スク

ラッチフェア」、「元気いっぱい“ごちそうさま！”フェア」、「年末お疲れさまクーポン」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアや新感覚スイーツ！「冬のほっこりホットクフェア」等のメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は110億83百万円（対前年同期比10.4%増）となり、セグメント利益（営業利益）は7億17百万円（対前年同期比138.4%増）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は23店舗であります。内訳は直営21店舗、FC2店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、「春のお祝い祭り」、「初夏の行楽焼肉フェア」、「生ビールチャレンジ祭」、「美酒焼肉フェア」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアや和風スイーツ等のメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は14億77百万円（対前年同期比7.9%増）となり、セグメント利益（営業利益）は1億24百万円（対前年同期比50.9%増）となりました。

その他業態

当第3四半期連結累計期間に暖簾1店舗を直営化し、直営1店舗を閉鎖した結果、その他業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は15店舗であります。内訳は直営8店舗、暖簾1店舗、FC6店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「楽コンセプト（焼肉）」、「まんぼく（焼肉）」、「国産牛カルピ本舗安楽亭（焼肉）」、「和牛カルピ屋（焼肉）」、「春秋亭（和食）」、「上海菜館（中華）」、「龍饗（中華）」、「カフェビーンズ（喫茶）」、「AGRICOCO（イタリアンカフェ）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は4億50百万円（対前年同期比2.4%増）となり、セグメント損失（営業損失）は19百万円（前年同期はセグメント損失41百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ1億76百万円減少し、137億50百万円となりました。これは主に、有形固定資産の減価償却等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ3億89百万円減少し、84億88百万円となりました。これは主に、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ2億12百万円増加し、52億62百万円となりました。これは主に、四半期純利益の計上によるものです。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,504,347	21,504,347	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は 1,000株であります。
計	21,504,347	21,504,347		

(注) 提出日現在発行数には、平成26年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		21,504,347		3,182,385		147,735

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 111,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,212,000	21,212	
単元未満株式	普通株式 181,347		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	21,504,347		
総株主の議決権		21,212	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式937株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2 - 3 - 5	111,000		111,000	0.52
計		111,000		111,000	0.52

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,349,391	1,297,459
受取手形及び売掛金	349,778	320,729
商品及び製品	99,118	175,921
仕掛品	877	1,618
原材料及び貯蔵品	230,831	396,930
前払費用	202,822	203,731
繰延税金資産	78,741	35,450
その他	175,260	139,418
流動資産合計	2,486,822	2,571,260
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,399,785	2,233,411
機械装置及び運搬具(純額)	17,193	21,815
工具、器具及び備品(純額)	180,193	162,296
土地	5,627,685	5,627,685
リース資産(純額)	20,393	23,373
建設仮勘定	-	902
有形固定資産合計	8,245,251	8,069,485
無形固定資産	103,027	105,886
投資その他の資産		
投資有価証券	82,914	82,871
長期貸付金	883,532	846,806
長期前払費用	23,188	28,515
繰延税金資産	10,065	26,775
敷金及び保証金	2,765,966	2,701,959
その他	63,935	53,551
貸倒引当金	736,772	736,171
投資その他の資産合計	3,092,830	3,004,309
固定資産合計	11,441,109	11,179,680
資産合計	13,927,931	13,750,941

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	526,125	641,544
短期借入金	6,145,601	5,724,396
リース債務	8,875	11,553
割賦未払金	6,961	2,794
未払金	249,297	192,913
設備関係未払金	19,092	16,043
未払費用	495,523	500,940
未払法人税等	123,561	62,955
未払消費税等	94,716	90,169
賞与引当金	64,124	44,540
転貸損失引当金	3,217	3,217
その他	497,673	527,741
流動負債合計	8,234,770	7,818,811
固定負債		
長期借入金	-	9,998
リース債務	21,901	22,610
長期割賦未払金	389	3,645
繰延税金負債	116,278	117,815
退職給付引当金	133,637	134,082
役員退職慰労引当金	270,791	280,811
転貸損失引当金	28,149	25,737
その他	72,034	74,534
固定負債合計	643,180	669,234
負債合計	8,877,951	8,488,045
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	602,977	387,706
自己株式	67,273	67,469
株主資本合計	5,049,395	5,264,471
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,116	7,795
その他の包括利益累計額合計	6,116	7,795
新株予約権	6,700	6,220
純資産合計	5,049,979	5,262,895
負債純資産合計	13,927,931	13,750,941

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	11,844,181	13,011,569
売上原価	4,378,865	4,692,057
売上総利益	7,465,316	8,319,511
販売費及び一般管理費	7,486,848	7,880,377
営業利益又は営業損失()	21,532	439,134
営業外収益		
受取利息	25,392	24,501
受取配当金	1,570	1,695
受取地代家賃	8,340	8,165
貸倒引当金戻入額	476	511
その他	37,869	32,665
営業外収益合計	73,650	67,538
営業外費用		
支払利息	119,733	109,097
その他	8,720	10,067
営業外費用合計	128,454	119,165
経常利益又は経常損失()	76,336	387,508
特別利益		
固定資産売却益	1,079	-
投資有価証券売却益	-	0
受取補償金	251,912	-
特別利益合計	252,992	0
特別損失		
固定資産除却損	69	1,756
減損損失	123,095	10,264
賃貸借契約解約損	5,972	30,074
特別損失合計	129,137	42,095
税金等調整前四半期純利益	47,518	345,412
法人税、住民税及び事業税	60,846	103,559
法人税等調整額	1,992	26,581
法人税等合計	62,839	130,140
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	15,320	215,271
四半期純利益又は四半期純損失()	15,320	215,271

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	15,320	215,271
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	361	1,679
その他の包括利益合計	361	1,679
四半期包括利益	14,959	213,592
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,959	213,592

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
(株)書楽	200,777千円	(株)書楽	184,766千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	268,318千円	273,470千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	10,034,640	1,369,332	440,209	11,844,181	11,844,181		11,844,181
セグメント間の内部売上 高又は振替高							
計	10,034,640	1,369,332	440,209	11,844,181	11,844,181		11,844,181
セグメント利益又は 損失()	301,117	82,824	41,448	342,493	342,493	364,025	21,532

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては99,579千円であります。

報告セグメントに帰属しない全社資産について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては23,516千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	11,083,222	1,477,607	450,740	13,011,569	13,011,569		13,011,569
セグメント間の内部売上 高又は振替高							
計	11,083,222	1,477,607	450,740	13,011,569	13,011,569		13,011,569
セグメント利益又は 損失()	717,806	124,985	19,508	823,284	823,284	384,149	439,134

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注)2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては10,264千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金額()	0円72銭	10円6銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(千円)	15,320	215,271
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(千円)	15,320	215,271
普通株式の期中平均株式数(株)	21,394,879	21,392,608
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		9円89銭
(算定上の基礎)		
普通株式増加数(株)		369,750
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第3四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月13日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小笠原 直 印

業務執行社員 公認会計士 木村直人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。